令和６年度　中学年授業改善プラン

	児童の課題	改　善　策
国語 ３年	・段落相互の関係に注意して、正しく文章を書くこと。	・「はじめ・中・終わり」の組み立てで文章を書き、文章のまとまりを意識して書く練習を繰り返し行う。報告文、感想文などそれぞれの文章の構成に気を付けて書くことができるようにする。
	・登場人物の気持ちなどを、叙述を基に想像すること。	・物語の叙述から、どのような気持ちが捉えられるかを自分で考えたり、友達と伝え合ったりする活動を取り入れることで、イメージを広げていく読み方ができるようにする。
	・漢字を正しく読み書きし、活用すること。	・毎日の宿題として漢字ドリルの練習を出し、日々の小テストに繰り返し取り組むことで、正しく漢字が読み書きできるよう指導する。児童が文章を書くときは、既習の漢字を使う意識をもてるように指導する。
	・相手に伝わりやすくするために、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	・スピーチなどの練習の際はタブレットの録画機能を活用して、自分の話し方を振り返ることができるようにする。また、朝の会や帰りの会などで、繰り返し話す経験をさせる。その際、話の組み立てに気を付けて、話の中心が相手に伝わる話し方ができるように継続的に取り組ませる。
４年	・互いの考えの相違点や共通点を考えながら言葉・表情などで反応し合い、すすんで話し合いに参加すること。	・日々の授業や朝の会・帰りの会でも話す・聞く活動を多く取り入れ、必要なことを記録したり質問したりしながら話す・聞く力を育て、自分の考えをもつことができるようにする。
	・日常の出来事を振り返りながら、書く内容の中心が明確になるように、一つの事象を詳しく思い出し、広げて書くこと。	・日記・詩・俳句・紹介文、感想文、新聞作成など、様々な書く活動を行う。目的に応じた文章を書く学習を積み重ねることで自分の意見とその理由を意識して書けるようにする。また、書いたものを推敲する習慣も付けるようにする。友達の文章を読み、互いの文章の良いところを見付け、伝え合うようにする。
	・漢字を正確に書き、文や文章の中で使うこと。	・漢字の復習を定期的に行うとともに、作文を書く際には既習の漢字を使って書くようにする。国語辞典や漢字辞典をすすんで活用し、自分で調べ、積極的に使うようにする。
	・３年生で学習したローマ字を書いたり読んだりすること。	・タブレット端末でのローマ字入力の練習や、身近なローマ字の言葉を読んだり書いたりする練習をして、復習を重ねることでローマ字を使えるようにする。
社会 ３年	・大田区の地域の産業や地域の様子の移り変わりについて地図帳や具体的資料を用いて調べまとめること。	・身近な地域の特徴に関心をもち、見学を通して区内の様子を知る。写真や文章資料・地図などを手掛かりに、大田区の特色を調べる学習を取り入れながら、分かったこと、そこから考えたことをノートやワークシートにまとめる活動を取り入れる。
	・地域の生産・販売の様子から疑問を出し合い、学習の問題を見出して、追究し解決していく。	・スーパーマーケット見学や出前授業を基に視点を明確にもたせて、学習課題を自分から作る時間を取り入れ、地域の生産や販売の様子を理解させる。
	・単元の学習を通して、社会的事象について理解し、自分の考えをもつこと。	・工場、消防署や警察署で働く人々の活動について理解するために、単元の中に資料を読み取る時間や実際に見学をする時間を取り入れる。また、学習内容と自身の生活を関連付けて考えさせる。
４年	・社会的事象について、自分事として捉え、自分の考えをもつこと。	・自然災害から人々を守る活動などの社会的事象と自分たちの生活を関連付けて課題を設定する。学習問題が解決できるように、教科書や資料、インタビューなど多様な視点で調べ、分かったこと、そこから考えたことをノートやワークシートにまとめる。ゲストティーチャーを招いて講話をしていただくことで、身近に感じられるようにする。

	・地図記号や方位の理解をもとに、土地の様子について地図を読み取ること。 ・伝統を受け継ぐ人たちや、地域の人たちなどの思いや願い、努力について理解すること。 ・年間を通して４７都道府県の名前と位置を覚え、生活の中で活用すること。	・地図帳や各種の具体的資料を活用する機会を増やして情報をまとめる力を身に付けさせる。資料を読み取る視点を明確にして指導する。 ・総合的な学習の時間と合科的に学習をすすめる。 ・具体的なイメージがとらえられるように映像資料を活用したり本やインターネットで調べるだけでなく、実際に来校していただき、関わることで、人々の思いや願い、努力が身近に感じられるようにする。 ・授業で都道府県の特徴や特産品について触れながら関連する内容を取り上げて、都道府県の名前や位置を想起させるようにする。日本地図のワークシート等で都道府県の名称や位置について継続的に指導する。
算数 ３年	・わり算の計算、大きい数のたし算ひき算の計算の仕方について理解し、正しく計算すること。 ・数の大きさや長さ、時間の量感覚などについて具体的にとらえ、意味や計算の仕方について理解すること。 ・数学的思考力が問われる文章問題について考え、解決の仕方を書いたり説明できたりすること。	・等分除や包含除の計算が成り立つ場面をイメージしながら問題が解けるように、具体物や図表（ドット図）を活用して、文章問題の場面設定を視覚的に把握したり、順序立てて考えたりする機会を増やす。 ・筆算では繰り上がり・繰り下がりに印をつけるなどして、丁寧に計算する時間をとる。 ・計算力の定着を図るために、定期的に練習問題に取り組む時間を設定したり、家庭学習でも取り組めるようしたりする。 ・生活場面の中の巻き尺、時計やストップウォッチなどを使って、実際に数を書き込んだり長さなどを調べたり、時間を計ったりして、実感をもって理解できるように、経験を繰り返す。 ・問題を図式化するなど具体的な場面を理解した上で、正しい立式を確かめたり、問題の解決方法を図（線分図）や言葉などを使って説明したりする。また、必要に応じて、練習問題を用意し、文章問題を解いたり、問題を作ったりすることで理解を深める。
４年	・かけ算やわり算の筆算の仕方を理解し、正確に計算すること。 ・身近にあるものの長さや重さを推察したり、適切な単位を使ったりすること。 ・図形の概念や性質を理解したり、立体の見取り図や展開図の書き方を理解したりすること。	・乗法を繰り返し復習し、定着を図る。筆算では、算数ノートのマスを活用し、繰り上がりに気を付けて、いねいに計算する時間をとる。 ・計算力の定着を図るために授業の進行に合わせて練習問題を用意し、年間を通して繰り返し取り組めるようにする。 ・実物や身近な具体物について考えを広げ、ものの長さや重さを児童が実測する経験を増やし、量感覚を養うようにする。 ・正三角形や二等辺三角形などの図形をかいたり、それぞれの辺や角の長さや大きさを実際に比べたりすることで、共通点や相違点に気付くようにする。 ・立体の見取り図をかく際は、方眼用紙を用いて描き方の手順を指導することで、描けるようにする。
理科 ３年	・自然事象へすすんで関わろうとする意欲を高めること。 ・科学的思考・表現力を高めること。 ・着目した自然事象を適切に比較しながら調べ、差異点や共通点を基に、問題を見い出したり、結果・考察を発表し、伝え合ったりすること。	・実験や観察など体験的な活動や今までの経験などを想起し話し合う活動などを多く取り入れる。 ・自分の考えを実験・観察に生かし、与えられた実験をするだけでなく、児童に実験の条件や方法を考えさせたり、話し合わせたりして問題解決の能力を少しずつ向上させる。 ・計画的に観察や実験を行い、気付いたことを自分の言葉で書いたり、どのようなまとめ方がよいのか全体で共有したりする。

	・植物や昆虫の育ち方を理解すること。	・実際に植物や昆虫を育てたり、タブレットを使用して観察や映像などＩＣＴ機器を活用したりする。
４年	・自然事象へすすんで関わろうとする意欲を高め、知識及び技能を定着させること。 ・季節ごとに自然の変化や生き物の様子を理解し、事実に即して記録すること。 ・水の三態変化を理解すること。 ・金属、水及び空気の温まり方や体積の変化の実験を行い、振り返りながら記録すること。	・導入の仕方を実物や身の回りの事象を紹介するなど工夫し、児童の学習意欲を高める。単元のまとめで振り返りの問題に取り組んだり、適宜映像を見たりして既習事項を振り返り、知識の定着を確実にする。 ・年間を通して植物や生き物を観察させ、それらの変化を捉えて記録するよう指導する。 ・「自然の中の水」の学習と関連付けて指導する。湯気と水蒸気の違い等、混乱しやすい事項が多いため、それぞれの水の状態について実験を通して実感を伴って理解できるようにする。実験の際は、自分の意見をもったり、振り返ったりする時間を十分にもつ。 ・経験や既習学習を生かして、ものの温度と体積の関係を考えさせる。また、実験の進め方については、課題、根拠のある予想、自分の考え・友達の考えを聞いて・やったこと、確かになったことの学習活動の流れをルーティン化して、活動に取り入れ、定着させる。
音楽 ３年	・リコーダーの息の使い方とタンギングの仕方を理解し、良い音色で演奏すること。 ・呼吸や発音に気をつけて、自然で無理のない歌い方で歌うことができること。	・教師の範奏やＣＤ音源などを活用して、リコーダーの音色の良さを感じ取るようにする。また、友達の音を聴き合いながら演奏ことで、息の強さに気を付けてきれいな音色で演奏できるようにする。 ・階名唱の機会を多くもつことで、旋律の音の動きに気付かせ、子音・母音が明瞭で無理のない発声になるように気を付けさせる。声の強弱も大切にし、ひびきのあるきれいな声を身に付けられるよう指導する。
４年	・音楽表現活動において、自分の思いや意図をもち、ふさわしい歌い方や演奏の仕方で行うこと。また、そのために必要な技能を身に付けて、自信をもって発表すること。 ・曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付き、曲や演奏のよさを見い出し、曲全体を味わって聴くこと。	・既習の楽曲を用い、スタッカートやスラーなどの表現方法や、強弱や速度などの違いによる表現方法などを様々に試すなどして、表現を工夫する楽しさを味わえる場面を多くつくる。思いを実現し、表現するための技能を身に付けた上で、自信をもって演奏できるようにする。表現活動の際には、個からグループ、学級全体と共有し、そのよさを認め合うようにする。 ・学習する曲において、指導の中心となる視点を明確にする。また、曲を聴く活動とともに、中心となる旋律を簡略化した譜例や楽器のイラストなどを用いて可視化し、音楽の構造や作者の思いに気付くようにする。
図工 ３年	・意欲をもって取り組めるよう、素材から自由に発想したり、つくりたいものを思いついたりすること。 ・基本的な用具を正しく使ったり、安全に気を付けながら使用したりすること。 ・作品のよさや面白さを感じ取ること。	・素材と関わる時間を十分に設け、素材のよさを実感し、つくりたいもののイメージを広げ深められるようにし、自分の作品のイメージをもてるように指導する。 ・活動を始める前に書画カメラや掲示物を使って、正しい使い方を丁寧に説明する。カッターナイフ、金槌や釘など用具を使用する前に、安全な使い方やルールを明示し、きちんと守れているか確認を行う。 ・自分の作品をタブレット端末で撮影して、学級や学年で共有する。自分の作品のよさを見出したり、作品制作の参考にしたりと、制作や鑑賞で活用を行う。 ・自分たちの作品だけでなく、身近な美術品などを鑑賞する時間を十分に設ける。また、友達に自分の作品を語る場を設けることを通して、色や形に対する見方を深め、友達の作品のよさを感じ取る視点を養う。

４年	・自分の感覚や行為を通して、形や色の感じを理解すること。 ・用具や材料を安全で適切に使えること。 ・豊かに発想したり、思いついたことから自分のイメージ、思いを広げたりしていくこと。	・鑑賞などの場面で、形や色から連想する感じを取り上げたり、友達との感じ方の違いに着目したりするよう指導したりする。 ・制作の際には、形や色から発想する感じを基に、素材を選んだり工夫したりすることを指導する。 ・用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、正しい使い方をしっかりと全体に指導する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度や表したいことによって個別に指導していく。 ・題材のねらいを明確にしながら、造形的な視点を基に工夫できることを全体で確認する場を設ける。 ・鑑賞の視点として、形や色の感じ、組み合わせ、色の明るさや変化などの造形的な視点に加えて、発想の面白さも取り上げる。
体育 ３年	・めあてをもって運動に取り組み、めあてを達成するために運動の仕方を工夫したり、自分にあった場で運動したりすること。 ・器械運動や跳の運動に対して意欲的に取り組むこと。 ・運動に合わせて、規則を工夫したり、作戦を考えたりすること。 ・ボールを投げる運動、投力を高める運動に取り組むこと。	・各領域で学習カードを活用し、めあてをもたせる。単元計画を学習カードに記載することで、児童に授業の見通しをもたせ、目指す姿や目標を考えるよう指導する。運動に効果的な場を設定して自分に合った場で運動できるようアドバイスする。活動を終えるときには自分の取組を振り返らせるようにする。 ・個人の能力差を考慮してチーム編成を行い、友達同士で認め合うような声掛けができるような場を設定する。また、お互いにアドバイスができるように、見るポイントを確認できるようにワークシート等を工夫する。 ・ＩＣＴを活用し、友達のいいところを見付けたり、手本として真似したりすることで技のイメージをもたせ、出来ばえを確認する。 ・マットや幅跳びなどの運動では、導入や活動の展開を工夫し、児童の関心を高めるよう指導する。体育館遊びのときは、マットを出して児童が使えるようにする。 ・「ゲーム」の運動領域ではチームや友達と協力して、規則を考えたり、簡単な作戦を考えたりする時間を意図的に設定し、お互いに考えたことを伝え合うようにする。作戦が成功したかどうかをチームで学習カードを活用しながら振り返り、次の運動につなげていくようにする。 ・遠くに投げることを意識できるように、手だけでなく、腰や肩を使った投げ方のフォームの指導や腰の捻転を意識させる。場の設定を工夫して取り組むようにさせる。
４年	・自分の課題を明らかにして運動に取り組み、めあてを達成させるために運動の仕方を工夫したり、自分にあった場を選んで運動したりすること。 ・自分の考えたことを他者に伝えること。 ・腕で体を支える運動ができること。 ・体つくり運動を適宜取り入れ、体力を高めること。	・各単元で学習カードを活用し、自分の課題をもたせる。授業の終わりには、自分の運動の様子を振り返させるようにする。 ・技能ポイントを学習カードや実演などで示し、動きや体のどの部分を意識して運動するのかを児童が理解できるようにする。友達と見合う時には、見る視点が分かるようにする。ペアやトリオ、グループ学習を取り入れ、自分たちで運動の様子を見合い、助言し合えるよう場や環境の工夫をする。 ・タブレットで動きを録画して自分の動きを振り返ることができるようにする。主運動につながる補助運動を取り入れ、腕支持感覚を身に付けさせる。 ・速さ、リズム、方向などを変えて這う、歩く、走る、跳ぶ、はねる、登る、下りるなどの動きで構成される運動や一定の速さでのかけ足などの運動を通して、体を移動する動き

	・運動の楽しさを味わえるように規則を工夫すること。 ・勝敗を受け入れられること。	を身に付けるとともに持久力を養う。 ・運動経験の差を考慮し、児童の実態に応じて規則を変えながら、全員が運動の楽しさに触れられるようにする。学級を超えて兄弟チームを作り、勝敗を競わせることで勝負の楽しさを味わわせる。 ・審判を自分たちで行い、公平にルールを守ることができるようにする。
外国語活動 ３年	・自分のことや身の回りのものについて、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにすること。 ・自分のことについて、動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと。	・具体物を示しながら話したり、繰り返し音声を聞いたり、話したりする活動を行ったりすることで、基本的な表現に親しめるようにする。 ・児童が伝えたいと思うような課題設定をする。 ・自分のことを相手に伝えるための工夫を考えたり、工夫（アイコンタクト、ジェスチャーなど）している児童を全体の場で取り上げたりして、相手に伝えることを大切にした活動ができるようにする。
４年	・文字の読み方を聞いた際に、どの文字であるか分かること。 ・自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うこと。 ・日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物を見せながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと。	・音に関するチャンツを聞いたり歌ったり、帯で文字に関する活動を入れたり、カードを操作する活動を通して、文字に親しませる。 ・授業の始まりの挨拶や歌をパターン化したり、既習事項を活かしてコミュニケーションを図る活動を頻繁に取り入れたりする。 ・教師と ALT でよいモデルを示すことで、児童自身がイメージを持って活動に取り組めるようにする。 ・児童が伝えたいと思うような課題設定をする。